

DIPL 通信第161号をお届けします。

夏休みが間もなく終わり、新学期が始まります。受験生の皆さんは中1中2内容の復習はしっかりできたでしょうか。この夏に学習したことを復習し、受験へと確実に向かっていきましょう。非受験学年の皆さんは夏休みの宿題は余裕を持って終わらせることができますよね。中間テストは夏休み前に学習した内容もテスト範囲です。夏休みに学習したことを復習して2学期にしっかりと活かしましょう。

今回の DIPL 通信では定期テストに向けた目標の設定と反省の仕方についてお話します。

橋本克哉

目標を立てて分析しよう

最近、定期テストが終わると、自分の取った得点に対して平均点より高かった、低かっただけで終わり、次のテストでも同じことを繰り返している生徒さんが非常に多く見受けられます。平均点では他の人との比較しかできないので、自分が次の定期テストに向けて何をすれば良いのかわからず、行動の改善に全くつながりません。その結果、テストの得点アップがなかなかできない状態になってしまっています。そこで今回、定期テストの前後で何をすれば良いのかを伝えます。

まず、テスト前には目標を決めるようにしましょう。

目標といっても大きいもの（テストで90点を取る）から小さいもの（1日最低10分勉強する）と幅広くあります。しかし、目標が大きすぎるとするべきことが曖昧になります。そこで、大きな目標に向けての小さな目標を決めていきましょう。目標を立てる際には以下のように順序立てることをオススメします。

例：（理科の成績を4に上げる）⇒（理科のテストで80点を取る）⇒（学校ワークを2周する）⇒（学校ワークをテストの10日前に終わらせる）⇒（授業で学習した部分のワークをその日に勉強する）⇒（毎日理科の勉強時間を最低5分作る）

このように大きな目標を決め、それから順番に、そして明確に何をしていくのかを決めましょう。高校受験生はWもぎ、大学受験生は模試で偏差値いくつを取るという目標が合格に向けての明確な目標になります（もちろん、高校受験生は2学期の定期テストが最優先ですが）。この目標立てを毎回のテストで実施していくと、次に立てる目標がより明確なものになります。

例えば、前回ワークを2周したけど70点だったから3周してみよう、勉強時間を作るために他教科のワークも10日前に終わらせてみよう、といったように次の目標につながっていきます。また、自分がテストに向けて具体的に何を、どのように実施したのかも明確に分かり、自分の行動を見直すこともできます。

次にテスト後には答案をしっかりと分析しましょう。

Wもぎや模試であれば弱点がどこかを分かるようになっているのですが、定期テストは基本的には明確なコメントが書かれていません。では、どのように分析していくのかを以下の例で実際にしてみます。

例：中学2年生 中学1年からDIPLで数学を受講している

一学期中間： 数学86点 学校ワーク終了4日前

一学期期末： 数学65点 学校ワーク終了4日前

この生徒の得点状況から分かることは、まず一学期中間の得点が高かったのは試験範囲が短く、DIPLの先取り学習により貯金が十分にあり余裕をもって復習できたからだと考えられますね。また、テスト内容を考えてみると一学期期末は一学期中間内容を利用した問題が入っており、単純に問題の難易度が高くなっています。だから、実際には一学期期末では範囲が広く、内容が難しいことを考えてワーク終了日をもっと前（少なくとも7日前）にしておく必要があった、と分析できます。

このようにして得点の上下を見るだけでなく、なぜ高かった、低かったのかをテスト範囲、テスト内容等を含めてしっかりと分析するようにしましょう。さらに、具体的にテストのどこが特に間違っていたのかもチェックし、自分の勉強方法の見直しができる、より良い勉強の仕方につながります。

以上のことから次のテストに向けた目標を決めるのは高得点を取るために非常に大切だと分かったでしょうか。そして、次の目標設定では基本的には最初の目標の決め方と同じように、順番に明確に決めるのですが、ここにテストの分析をしっかりと活かしましょう。「次は期末テストで教科数が多いからもっと早くにワークを終わらせておこう」「苦手な図形問題に入るからワークを2周ではなく3周するようにしよう」、といったように考えて目標を再設定することが大切になります。

さて、二学期にはたくさんの行事がある中でのテストなので、今まで以上に計画を立てる必要があります。これを読んだら一学期期末テストの結果、夏休み前の学習内容、夏休み中の自分の勉強の理解度をしっかりと振り返って、次の定期テストの目標と計画を決めて下さい。毎回の定期テストを意味のあるものにしましょう。